

# えびぞり

6

立川と語ろう 立川に生きよう  
June 2007  
écoutez bien Vol.25 No.271

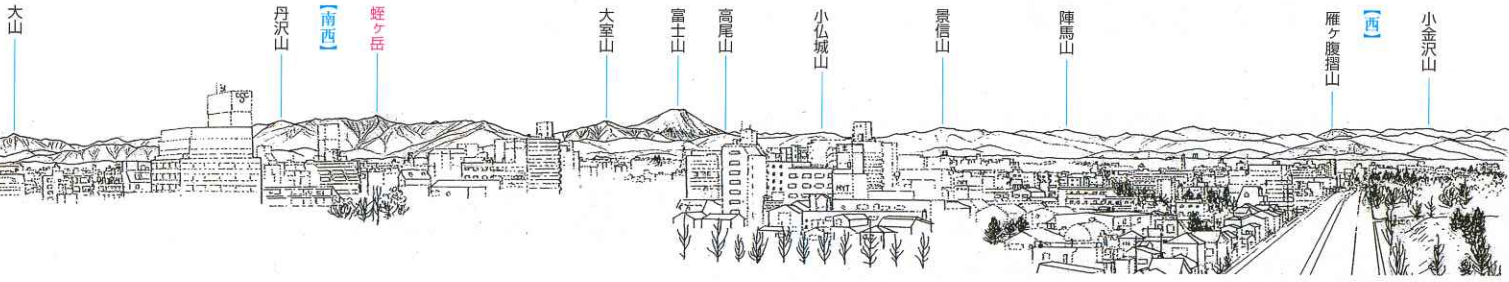


## 続・立川から見える山 ⑪

案内人：守屋龍男 写真：中村 伸  
山岳展望図：藤本一美

# 蛭ヶ岳

1673m



## 丹沢山塊の最高峰

### 【蛭ヶ岳へのコース】

上青根林道終点→1時間30分→尾根道→40分→  
姫次→30分→地藏平→1時間20分→蛭ヶ岳山頂  
→往路を戻る

### 【丹沢主脈縦走コース】

渋沢→バス→大蔵→3時間→塔ノ岳→1時間→丹沢山  
(宿泊)→1時間30分→蛭ヶ岳→1時間10分→  
姫次→1時間30分→焼山→1時間40分→  
焼山登山口＝バス＝橋本



神奈川県西北部に大小百以上の峻険な山々が連なる丹沢山塊全体を、深田久弥は百名山に選んでいる。その中の最高峰が蛭ヶ岳である。狐師がかぶるヒル帽子（和紙で作った帽子に柿の渋や猪の油を塗ったもの）に似ているから、この名が付いたとも言われている。立川からは南の方に広がる丹沢主脈の屋根型の山容の中央に見える。山頂には山小屋があるので夜などその灯りが見えることがある。

梅雨の真っ只中の昨年6月下旬に登った。相模原市の青根から入山。日帰り登山のため、出来るだけ奥地まで車で入りアプローチ時間を短縮した。釜立沢脇の細い山道を満開のウノハナやアズキナシを眺めながら急登する。時折、深い霧流れてきて足元さえはつきりしない。悪戦苦闘の末、やっと尾根道に出る。東海道自然歩道にもなっている道は、先程とはうってかわって歩きやすい。シカが目の前を横切り、コジュケイが大騒ぎして藪に隠れた。動物たちもまさかこんな日に人間が来るとは思っていなかったようだ。

しばらくして蛭ヶ岳の展望が良い姫次という草原に着くが、残念ながら霧にすっかり隠れてしまっている。休憩も取らず、その先の深い原生林の中を行く。地藏平を過ぎるといよいよ急な道。何百段の木製階段もあり、またまた、汗だくなる。

やっとのことで山頂に着く。一時晴れていたがすぐに霧に包まれ展望は殆ど無くなった。山小屋に人の気配はない。寂しいほど静かだ。一角にトウゴクミツバツツジが赤い花を咲かせ、そこだけはスポットライトをあびせたように明るかった。

下山は元の道を下った。登りと下りでは見る角度が違うせいか風景も違って見え、そんなに飽きない。途中あまり気づかなかったテンニンソウの大群落にお目にかかった。初秋の開花時期には写真を撮りに、もう一度来るようだ。

# 立日橋がくれた詩

詩人

## 杉本 ひびさん



於：えくてびあん編集工房 写真：玉来孝平

■杉本 ひび(すげもと・ひび) / 1980年生まれ。京都造形芸術大学中退。小さい頃から詩の創作を続け、立日橋で創作した詩を含む22編の詩集《葡萄ジュウス》で第24回新風舎出版賞 奨励賞を受賞。現在は結婚し一児の母。  
■清水恵美子(しみず・えみこ) / えくてびあん編集工房

**清水** 受賞作品が詩集になってこの3月に出版されたんですね。偶然それをオリオン書房で見つけたんです。  
**杉本** ありがとうございます。書店に並んでるなんて全然知らなかった。オリオン書房には昔、バイト代が入ると真っ先に本を買に行きました。  
**清水** 〈立川出身の方の詩集です〉って手書きポップがついてましたよ。  
**杉本** え〜。じゃ、帰りに寄って見て行こう。へえ〜。でも本当は私、日野市の出身なんです。立川で働いていたことはありましたけど。  
**清水** そうだったんですか。この詩集に取られている詩のほとんどが、立日橋で創作されたんですよね？  
**杉本** そうです。立日橋にばかり行ってま

したから。一番先に覚えた橋の名前も立日橋。小学校3年生ぐらいのときに立日橋ができたと思います。白地図があって、先生が「ここが立日橋。立川と日野を結ぶから」と言って、へえって思った。立日橋は他のどの橋よりも、抜ける感じが一番よかったです。  
**清水** 立日橋から眺める風景はきれいですものね。富士山も見えるし。西の方の景色を見るのでしょ？  
**杉本** いいえ。川をのぞくんです。東側の……。  
**清水** 川？  
**杉本** はい。私、ここにいたんだあって。  
**清水** ……。  
**杉本** 川の水がきれいじゃないですよ。黒いというか青の濃いものっていうか。私はここにいたんだあって思うんです。今い

るところはいつも違うって思うんです。  
**清水** よくわからないけど、飛び込んじゃいそうで危なげだったかな？  
**杉本** はい。飛び込むつもりはないんですけど、一回止められました。この詩集の中の詩を書いていた頃は20歳前後ですけど、飛び込むと誤解されてもおかしくなかった。一度倒れたら起き上がれない、そんな感じだったんです。地面と自分がすごく近くなってしまっ。

**杉本** 思います。……言わないけど。いっぱい国があるのに、私はここでこうしているっていうのが不思議。でも、子どもがいてこれでいいんだって思うことに無理はない。他へ行くことは必要ないんだあって思う。今必要なのは子どもなんだ、だから子どもと一緒にいようって。  
**清水** 現状に不満がない……。  
**杉本** ないです。幸せです。詩集に載っている詩を書いていた頃は本当に不安定で、一年ぐらいかけてもとの自分に戻っていった。朝早く起きて夜早く寝て。母がナスの苗を1本くれて「水と太陽さえあれば育つよ。やってみる？」って。それならできるかなあって思って、毎日毎日ナス見て、水あげて、雨が降ったら心配して、風が吹いたら心配して。そうしたらだんだんもとの自分に戻って来た。そんなころ夫に出会いました。  
**清水** そして結婚したのね。  
**杉本** 子どもはできないって言われていたのに子どももできて、今は本当にありがたいです。子どもがおなかにいた頃、夫が夜遅くて一人でいたり不安や憂鬱、寂しいときもあったけれど、それでもこんな贅沢はないって思いましたね。この寂しさはいい寂しさだなあ、贅沢な寂しさだなんて。  
**清水** いい寂しさ、そうですね。そう思えるってすごいことだと思う。これでもかこれでもかっていうほど不満を言う人がいる世の中なのに……。心が幸せになった今、この詩集をどう思います？  
**杉本** そうですねえ、ああ、こうだっとなって感じかな。ただそれだけ。日記みたい。今は当時と同じ気持ちではないけれど、この先また当時のような気持ちにならないとも思ってない。……ものすごく個人的な感情ですよ。  
**清水** そうですね、そもそも詩って自分しかわからないような私的なものですよ。

**杉本** そう。だから応募するまでもなくごく時間がかかって、本にするにもごく時間がかかった。だってこんなもの誰が読むんだろうって、誰にも見せたことのないようなものなのになって思ったから。  
**清水** でも賞をとっちゃった。  
**杉本** 一次選考、二次選考、通りましたっていう連絡をもらうと不思議でした。何がいいんだろうって思いましたね。出版社の方がいいって言ってくださっても、そうなのかなあって。  
**清水** 「鍵の子供」って、お留守番している子供の心なんかは、すごく共感しましたよ。うちの娘もこんな風に感じながら留守番してるのかなって。わかりにくい詩もいっぱいあるけど。でも、賞をとっちゃうんだからすごいですよね。  
**杉本** 新風舎の出版賞にはいろいろな賞があって、出版社の方で書籍にしてくれる賞と、作者側と共同で書籍にする賞と二通りあるんです。私はその後の方。  
**清水** お金をかけても本にしておきたいって思ったのは、どうしてですか？  
**杉本** 売れるとか売れないとか考えて書いたわけじゃないし、書きためたものか思いがけず本になるきっかけをいただいたってことなんです。本にしようって決めた時、夫と子どもに何か恩返しができるいいなって思ったんです。今の生活があるのも、本を出すことができたのも、夫と子どもがいてくれるから。今は毎日、感謝と反省の繰り返しです。  
**清水** また本を出してみたい？  
**杉本** う〜ん、どうかな？ 売れるものじゃないし、もうそんなお金もないし(笑)。



ザ・クレストホテル立川	錦町 1-12-1 521-1111
美容室 アリス	錦町 1-15-21 525-1100
パンと洋菓子 うちのやブルマン	錦町 1-18-7 524-9280
そば処 そば葉	錦町 1-20-15 522-7558
画廊 無門庵ギャラリー	錦町 1-24-26 529-2323
駄菓子・ファンシー むぎばたけ	錦町 2-1-1 526-0210
美容室 FALCO	錦町 2-1-10 528-2389
諸官公庁御用達・日用雑貨 池田屋	錦町 2-1-10 522-3731
N HAIR WORLD	錦町 2-1-18-1F 523-5336
しゃぶしゃぶ・調理 しゃぶ・りん	錦町 2-1-33-3F 527-2228
スペイン料理 TAPAS	錦町 2-2-29 529-0733
Bakery Cafe Crown	錦町 2-4-2 526-2226
三田花店本店	錦町 2-5-23 524-4187
いわさき痛みの整骨院	錦町 2-5-26 529-5123
(有)朝日屋酒店	錦町 2-6-12 525-6333
にしま薬局	錦町 2-7-8 525-9212
パスタの店 パセリ	錦町 3-1-21 525-8486
アミューたちかわ	錦町 3-3-20 526-1311
多摩信用金庫 錦町支店	錦町 3-6-9 528-0511
そば処 高尾亭	錦町 5-5-31 522-2710

えくてびあんの輪  
立川と語ろう 立川に生きよう  
えくてびあんは  
リストのお店にいつもあります

今月は 錦町・羽衣町のお店です。

Natural Food Restaurant シェイなば	錦町 5-19-9 529-5921
レストラン ロズまり	錦町 5-19-9-2F 529-3037
レストラン ラ・ポポラリータ	錦町 6-9-25 527-3880
高齢者総合施設 至誠ホーム	錦町 6-28-15 527-0031
多摩信用金庫 東立川支店	羽衣町 1-19-6 524-0611
Cake Studio 35	羽衣町 2-6-1 527-6808
林 歯科	羽衣町 2-7-10 522-5657
中島豆腐店	羽衣町 2-12-34 522-5732
フレッシュフルーツ 立川商店	羽衣町 2-30-6 522-3565
化粧品 OZAWA	羽衣町 2-31-1 522-3749
本・事務用品 泰明堂	羽衣町 2-31-1 522-3353
額縁 額縁専門店 プリムベール	羽衣町 2-32-6 528-6789
文具の ないとう	羽衣町 2-33-1 522-3677
テラー 安武	羽衣町 2-33-11 522-4820
株式会社 西友 西国立店	羽衣町 2-40-1 524-5101
赤松タバコ店	羽衣町 2-42 524-7852
まごころ銘茶 狭山園	羽衣町 2-45-1 527-0146
美容室 ヒロイン紅	羽衣町 3-2-4-1F 526-0018
蕎麦処 かめ井	羽衣町 3-2-17 524-8101
お好み焼きともんじゃ こけし	羽衣町 3-3-13 526-1267

# “夢の舞台” 再び

## 市民がつくった「立川市民オペラ公演 2007」

あの「立川市民オペラ」が帰ってきた。  
市民オペラの灯を絶やしたくないと、  
市民が自分たちの手で2年がかりで実現した夢の舞台。  
それも「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」の二本公演。  
5月5日、6日の二日間、  
市民会館（アミュたちかわ）大ホールは熱気に包まれた。

写真：小林達実

# Cavalleria Rusticana I Pagliacci

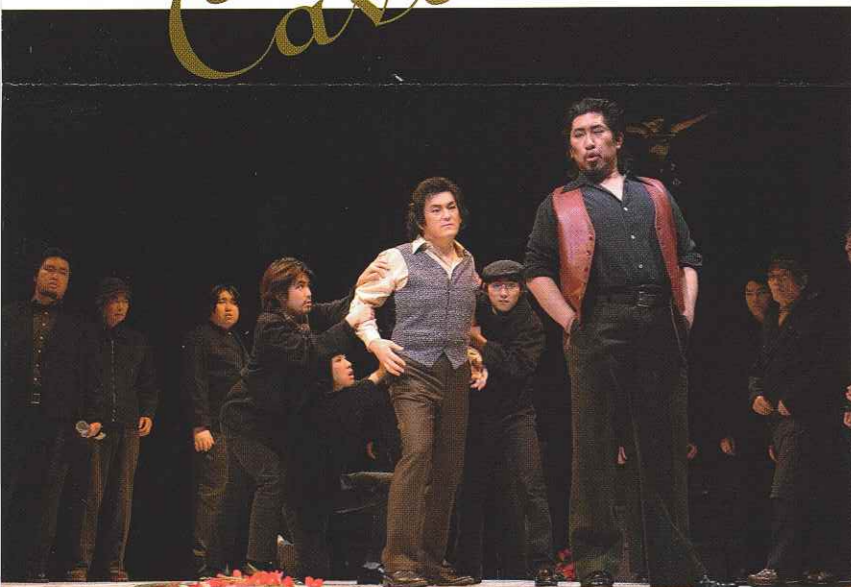
市民オペラの前回公演は一昨年3月の「カルメン」。立川市地域文化振興財団が2002年から開校した「合唱から学ぶ、市民オペラ学校」の3年間の成果を見てもらおう修了公演としてだった。1992、95年から10年の中断を経ての再出発。

オペラ学校修了生有志を中心に「立川市民オペラ合唱団」を結成し、市民が作り上げるオペラ公演に向けて動き出した。市内のオペラ愛好者も参加して実行委員会を作り、協賛金や協賛広告集め、チケット販売にも汗を流した。

今回の公演を目指した合唱の練習も前回公演後すぐに始まった。週に一回、制作を担当するオペラ歌手・宮崎京子さんの指導でイタリア語の歌詞を覚え、歌い込む。昨年4月にはオペラ合唱団の合唱で「カヴァレリア・ルスティカーナ」を披露した。運営態勢、オペラとしての質両面から全速力で走り続けたような2年間。

公演は5日、6日の2回。それぞれに顔ぶれが替わるソリストを迎え、「カヴァレリア……」「道化師」の二つの公演をこなす。アマチュアには高いハードルだ。オーディションで役を決め、立川市児童合唱団とともに立ち稽古、音楽稽古、立川管弦楽団とのオケ合わせ、ソリストと合わせての立ち稽古、衣装をつけての通し稽古……。演出の三浦安浩さんから何度も何度もダメを出されながら、全員で歌劇としての内容を高めてきた。2日間の公演は、その努力の集大成。

オペラ合唱団、児童合唱団ともに、前回公演でオペラの魅力に開眼し、引き続き今回も出演するメンバーが多い。ともに十九世紀イタリアを舞台にした二つのオペラは、男女の感情がもつれあい、やがて悲劇を生む。むずかしいオペラをアマチュアの市民たちがプロと一緒に表現し切った。立川に市民オペラあり。改めてそう感じさせる、すばらしい舞台だった。



4月10日には小ホールで、2作品のレクチャー & ミニコンサートで関心を盛り上げた



立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

**多摩てばこ  
ネット**

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てばこネット編集部  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

**常楽我浄**

真如苑提供番組組くじょうらくがじょう

スカイパーフェクTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分  
午後7時15分～7時30分  
再放送/火曜 午前9時～9時15分  
午後7時45分～8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて七十二年

**真如苑**

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

しゃべれどもしゃべれども “想い”に言葉は敵わない  
でも、好きという気持ちを伝えたい。

5月26日(土)より公開!

「愛をえうの」と 平山秀幸 監督作  
**しゃべれどもしゃべれども**  
園分太一 香里奈 松重豊 伊東四朗  
シネマシティ  
http://cinemacity.co.jp 042-525-1251

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。

先進のシステムと  
最新技術との融合

伝達を使命とする情報産業の一翼を担う大廣社は、新しい時代の新しい表現を責任持って拓くために、クリエイティブから最終製品にいたるまでの一貫体制を構築しています。

株式会社  
**大廣社**

〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
tel. 042-527-1911  
fax. 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp  
http://www.daikousya.jp/index.html

えくてびあん流

**三田鶴吉さんに聞こう!**  
6月21日グランドホテルで記録映画上映

〈立川の生き字引〉といえは三田鶴吉さん。その三田さんが主宰している文化講演会「立川望星講座」が間もなく50回を迎える。毎回、多彩な分野の方に講演をしていただき、その後講師をまじえた食事、というくつろいだ雰囲気。6月21日の講座では、少し趣向を変えて、三田さんの記録映画を上映する。

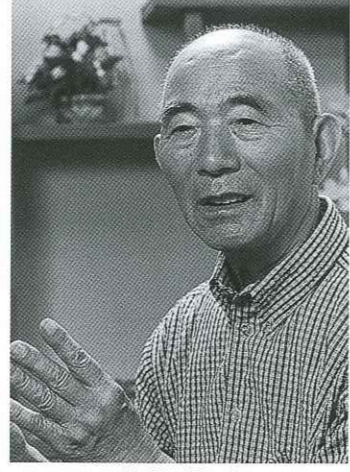
この映画は「東京賢治の学校」代表の鳥山敏子さん制作の長編記録映画『わたしの多摩川 わたしのまち —80歳 三田鶴吉さん 語る』(2004年)。三田さんが「東京賢治の学校」の子どもたちに自身の子ども時代のことなどを語った講演、鳥山さんのインタビュー、多摩川のあちこちを歩きながらのやりとりを記録した。

愛してやまない多摩川と人々の暮らし、本業である花屋としての修業時代の思い出、立川飛行場や戦争など、立川や多摩の生活文化や歴史、民俗、環境を知り尽くした三田さんならではの貴重な話がぎっしりと詰まっている。

80歳を過ぎて、ほとんどの公職を退いた三田さん。お話を直接うかがう機会が少なくなったが、この日の上映会には、もちろん映画の主人公ご本人も出席する。

記録映画を上映する立川望星講座は6月21日午後6時から立川グランドホテル。会費は一人5000円。問合せは事務局の三田花店(電話 042-524-4187)まで。

(c) Kohel Gorai



(c) Kohel Gorai

**この人この店 ④7**

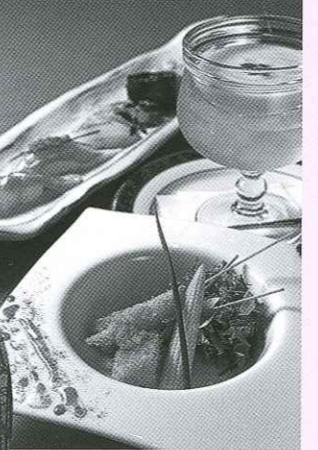
**和 やま田**

山田 誠さん

「え? まだ(やま田)に行っていない?」と言われ続けてきましたが、やっとうかがうことができました。金比羅橋近く玉川上水のほとりにたつ閑静な住宅がこのお店。立川で長年お寿司を握ってきた山田辰男さん。「おやじと同じことはしたくない」とフレンチに進んだ息子の誠さん。料理はふたりのコラボレーション。「手間がかかってんだよ、そのスープは」と辰男さんが説明するけれど、創っているのは誠さん。誠さんが運んでくれたサラダに、こんなの見たことない～と言えば、「うちはね、他にはないもの、目で楽しみ舌で楽しめるようにお出ししてるの」とまた辰男さん。お話の間にさっと握ってくれたお寿司にも見たことのないものが。イカの上、翡翠色の透明なものは何ですか? 「それはトビウオの卵のわさび漬け」。きれいです。笑顔の優しい息子さんに、自分の歩いて来た道をゆっくり譲るお父さん。料理と一緒に愛情も頂いてきました。

〒190-0031 立川市砂川町3-17-36  
TEL 042-537-1724  
営業時間 11:30～14:00  
17:00～21:30 (LO)  
定休日 水曜日(毎月第3火曜日、水曜日)

写真撮影: 宮保大輔



たすかわ散歩道 ⑪

**〈空の都〉の面影**  
戦前の飛行場南周辺を歩く

挿絵と文 ■ 森 信保

今回は、戦前民間航空や陸軍飛行隊の拠点だった旧立川飛行場南側を散歩する。

青梅線「西立川駅①」は「国営昭和記念公園」西立川口につながる駅。休日には多くの乗降客で賑わう。大正時代から岩崎氏(三菱)の経営する「子安農園立川養豚場」があったが、その後、軍の飛行場拡張に伴い移転。

昭和7年には民間空港が羽田に移され、周辺には軍需工場の立地が進んだ。私鉄だった「青梅電気鉄道」も軍の鉄道網に組み込まれ、西立川駅が開設。駅の南側に飛行機関係の工場や航空会社などが移転してきた。

戦前の立川飛行場には「航空工廠」「航空技術研究所」「航空技術学校」「気象観測所」「陸軍病院」など陸軍関係機関が多くあり、民間では「立川飛行機」「中島飛行機」工場のほか、周辺にはそこで働く人たちの宿舍などもできた。西立川駅の南側階段を下りた駅前のマンションやスーパー辺りも、戦前は航空機工場や工員宿舎。

スーパー前の道を東に歩くと右奥に青葉に囲まれた「富士塚公園」が見える。江戸時代、富士山の霊験にあやかって富士講が盛んにつくられ、この周辺からも登りに行ったのだろう。登山に参加できない女性や老人、子どもが小高い富士塚②の上から遠く富士山を遥拝したとも言われる。

大通り(旧江戸道)に出て東の立川駅方向に進み、水量の少ない残堀川の富士塚橋、青梅線(旧五日市鉄道)踏切を渡り富士見町1丁目交差点に。そこを左折した左右はかつて「東亜航空機」工場があったところで、今は倉庫や都営アパートになっている。青梅線の踏切を渡って突き当たりが、戦前「航空支廠」通用門があった辺り。

戦後の激動の時代を経て大きく変貌し、現在は左側が昭和記念公園、右側に老人福祉施設や「立川市総合福祉センター③」のある風景を見ながら、公園立川口前の中央南北線道路の交差点に。立川口④から入り、青葉に囲まれた木々の間を通り「みどり橋」陸橋を渡る。遠くの奥多摩、富士、丹沢の山なみや市街地を一望しながら公園「みどりの文化ゾーン」へ。屋上が緑地になった「花みどり文化センター⑤」で休憩して「あけぼの口」に出る。丁字路になった交差点の南角「曙町一丁目公園」の先は「陸軍立川病院」(旧国立立川病院)があったところ。その西には飛行機の安全を願った「航空神社」もあった。

信号を東に渡り、高層住宅ビル北側の小路に。この辺りが「立川飛行第五聯隊」「航空技術学校」の建物があった場所。小路を抜けモノレール下に着けば、一帯は大都会の雰囲気の「ファール立川」。ホテルとデパートの間を通り、「たましん」本店裏の東交差点付近が旧立川飛行場、第五聯隊の正門⑥だった。賑やかな大通りに出て立川駅北口⑦へ。

**行程** ① 西立川駅—② 富士塚(浅間神社)—③ 総合福祉センター—④ 昭和記念公園入口—⑤ 花みどり文化センター—⑥ 旧立川飛行第五聯隊正門跡—⑦ 立川駅北口



表紙の人

永島京子さん(柴町)

小学校3年から柴町に住む。お料理好きが嵩じて、自ら作るだけでなく自宅でお料理教室を開いている。中でも中華料理は横浜生まれのご主人の「晴れの料理」で、結婚以来の中心レパートリー。中華の名店シェフや名料理人に師事し、料理のレパートリーのみならず特製「XO醤」など食材にも隠れたファンが多い。ご夫妻でメディカルフィットネスに通い健康を維持するが、やはり「食」は健康の基本。おいしくて体のためにも良いお料理の秘訣は? 「もちろん、愛情です」。

柴町ご自宅で 写真: 細江英公

**かたこと**

またひとしきり 午前の雨が/菖蒲のいろのみどりいろ/眼(まなこ)うるめる 面長き女(ひと)/たちあらはれて 消えてゆく(「六月の雨」より)▼今年が生誕百年の中原中也にことういう詩がありました。時を経ていつまでも瑞々しい詩人の言葉▼対談は初詩集「葡萄ジュウス」を出したばかりの杉本ひびさん。今しか書くことのできない、ひびさんだけの言葉があります▼VIEWは市民が自ら参加し運営して2年ぶりに実現した「立川市民オペラ」公演。歌がありオーケストラがありドラマがある。大がかりな舞台を作り上げるエネルギーは大変なものです▼イタリア語を覚え、毎週練習を重ね、素人の市民合唱団がプロのソリストたちと舞台をともに作る。演奏は立川管弦楽団。身びいきではなく、これだけ高いレベルの市民オペラができるのは立川の誇りです▼詩人が全智全霊を傾けて言葉を紡ぐように、わずか数時間の舞台にかける情熱も、かけがえのないもの▼青葉もすっかり濃い梅雨どき。かきつばた、紫陽花、夏椿……華麗ではないけれど味わい深いこの時期の花たちは、どこか青春の含羞を思い出させます▼今という、たった一度の時を大切にしていきたい。えくてびあんもそう願います。(芳)

**スタッフ**  
編集 大久保清志/清水恵美子/中葉子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 小林達実/五来孝平/中村 伸/宮保大輔

**えくてびあん ⑥ 6月号**

第25巻 通巻271号  
平成19年6月1日発行  
発行 えくてびあん編集部  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

# やきものごころ

## 立川の女性陶芸家 5

鈴木佳世さん（富士見町） ①

やきものの修業って、窯業指導所に入るときもしかるべき師匠について、その紹介で入るらしいんです。何も知らないで行ったらその年の募集は終わっていて、せっかくだから助手をしたらと。一年後に入れてもらいました。私ってどうも、ふつう

と逆なんです。器やオブジェといろいろ作りますが、作る時は心がほどけたというか、ハッピーな気持ちでいたい。苦しさや悲しいこともそのまま抱きしめた優しい気持ちで。そのことだけは常に忘れないでいたいなと思っていきます。



〔花器〕

写真：五来孝平



### 鈴木佳世

すずき・かよ

建築から転じて陶芸を志し笠間の茨城県窯業指導所で助手。指導所卒業後荒田耕治氏に師事し1998年に独立。個展、グループ展に出品する一方、富士見町石田倉庫の陶芸教室「ポッターズスタジオ」を拠点に指導にもあたる。

〔風の棲む場所〕

